



株式会社 根津電設
代表取締役

藤ノ木 寛

「確かな技術力で24時間365日電気を提供し続けることが私たちの役割」と語る藤ノ木社長。

そうして人々の豊かな暮らしを支え、地域社会に貢献する。社長を突き動かしているのは、日々の「当たり前」を守る使命感だ。

社長は今後、自身が培ってきた技術やノウハウを継承していくべくより一層、人材育成に注力していく構えだという。

紡がれていく確かな技。その先で、明るい未来を照らしていくのだ。

「確かな技術力で『当たり前』を守るのが使命。
培った技術を継承していくのが責任」

株式会社 根津電設

新潟県十日町市高田町6丁目742番地2

Company Data

強い使命感と確かな技術力で 豊かな暮らしを支え、地域社会に貢献

AFTER THE INTERVIEW

「都会への若者の流出に歯止めがかからない状況の中で、何とか人材を確保していきたいと意気込んでおられた藤ノ木社長。一方で、現在社長のご息が入社して頑張っているそうです。「ありがたいこと」と語っていた社長。きっと社長自身が格好良い背中を見せてくれたのでしょうね。今後のご活躍を応援いたしますよ」 つまみ枝豆・談



タレント
つまみ枝豆

代表取締役 藤ノ木 寛

新潟県十日町市出身。学業修了後、様々な仕事を経験した後、父親の誘いを受けて家業である『根津電設』に入社。専務を経て、先代である父親の逝去を受けて代表職に就任し、現在に至る。



新潟県十日町市を拠点に電気の配電工事を手掛ける『根津電設』。創業以来、地域に根差し確かな技術力で人々の豊かな暮らしを支えてきた。そんな同社を牽引する藤ノ木社長のもとを、今日はタレントのつまみ枝豆氏が訪問。社長就任までのエピソードを交えながら、事業にかける想い、今後の展望など様々なお話を伺う中で、社長の横顔に迫った。

——早速ですが、藤ノ木社長のこれまでの歩みからお聞かせください。

ここ新潟県十日町市の出身です。四季折々の豊かな自然の中で、のびのび育ちました。高校卒業後には多くの人が都会へ出てしまうのですが、私には都会の水が合わないようで、ずっとここで暮らしています。

——『根津電設』さんはもともと社長のお父様が経営しておられたとか。後継者となることを見据えていらっしゃったのでしょうか。

いえいえ。私は三男でしたから、そういった思いはまったくなかったんです。とはいえ、他にやりたいことがあったわけではありませんが（苦笑）。それで学業修了後はフリーターのようなかたちで様々な仕事を経験していましたが、なかなかやり甲斐のある仕事とめぐり合うことができずにいました。そんなある時、「若手の人材が足りないから入ってくれ」と父に声をかけられたことがきっかけで家業に入ることになったんです。

——今はこうしてお父様の後を継いで立

派に舵取りを担っておられるのですから、社長にとってはこのお仕事为天職だったということでしょうね。

ただ、当時は兄がすでに家業で働いていましたから、私が上に立つことはできないだろうと考えていました。ですから「30歳になったら独立する」という条件を認めてもらった上で家業に飛び込んだんです。ここでしっかり頑張れば、自分の手で事業を手掛けるチャンスはきっとあるはず——そう信じて、経験を積み重ねていきました。

——では独立心はお持ちだったのですね。そんな社長が事業を継承されることとなったきっかけと伺いますか？

様々なタイミングが重なって私が継承することになったのですが、大きなきっかけとなったのは父が病に倒れたことです。そこからいつ、どんなことがあっても対応できるように、技術やノウハウを身につけておかなければ、という意識が生まれました。それから私は専務として少しずつ経営面なども学んでいくように。そして私が34歳の時に父が亡くな

り、その後を継いで代表職に就任し、現在に至ります。

——最善の準備を怠らない。経営者として必要不可欠な姿勢だと思います。いざトップに立って舵取り役を担われるようになって、いかがでしたか。

当初は無我夢中でした。仕事を取ってこなければ売上は生まれない、人材も育てなければならぬ。目まぐるしく動きまわっていると、気がつけばあっという間に時間が過ぎていました。その中で改めて気づいたのは、従業員たちの存在の大きさです。社長が一人頑張っても大した力にはなりません。皆で力を合わせて、この会社を守り立てていきたい。そう決意を新たにすることができました。

——経営者になって初めて気づくことってありますか。私もそうなんです。実際に経営をしてみて、それまでの立場とはまったく勝手が違うことに驚かされる日々です。

私自身が手綱を引くことで、会社が少しでも良くなっていけばという想いで日々従業員たちと接しています。思い悩むこともありますし、時には愚痴をこぼしたくなる時もあるでしょう。けれどもそれを口に出したところで何の解決にもなりません。現職に就任して、何より「人」の大切さを実感していますから、従業員の皆には「この会社で働いてよかった」と思ってもらえるような会社づくりをし

ていきたいと思っています。

——素晴らしい姿勢ですね。私も見習いたいです。ところで、御社では私たちの生活に欠かせない電気の配電工事を手掛けておられるそうですが、お仕事の上で大切にされていることを伺っても？

「確かな技術力で24時間365日電気を提供し続けること」が私たちの役割。ですから、台風や地震といった自然災害で停電が発生した際には、いち早く現場に駆けつけて早期復旧に努めなければなりません。

——特に夜間は電気が点いていないと不安になりますよね。

ええ。そんな時に、少しでも早く私共が「安心」をお届けしたいのです。そう

して強い使命感を持って、地域のライフラインを支え、社会に貢献する——その想いを従業員全員が持って、日々業務に取り組んでいます。

——責任あるお仕事ですが、その分やり甲斐も多いのではないですか。

そうですね。大規模な停電が発生した際には全国から専門の業者が集まって、少しでも早く皆様に電気を届けようという力をつけます。そういった時には社会を支えているという実感が湧いてきますし、何より復旧した時に皆さんが安心された顔を見たり、「ありがとう」といった喜びの声を頂いたりすると、「頑張ってたよかった」と嬉しくなりますし、励みになりますね。

——多くの人々の暮らしを支える御社の技術力をぜひ次世代につないでいただきたいです。最後になりますが、今後の展望はいかがですか。

これからも変わらず、地域に根差した信頼される会社としてあり続けることが一番だと考えています。そのためには、人材の力が欠かせません。これまで以上に、若手人材の確保に注力していく所存です。そして人材育成を進めながら、時流をしっかり見極めてさらなる事業拡大を図っていければと考えています。その先で確かな基盤を築き、次世代につないでいきたいですね。

——本日はありがとうございました。
(2022年4月取材)



Pick up the story

私たちの暮らしに欠かせない「電気」。毎日、快適に生活できているのは、『根津電設』のような事業者が電気の安定供給のために日々尽力してくれているからに他ならない。「電気が使えるという“当たり前”を実現するために、裏では多くの人が頑張っているのです」と対談で語ってくれた藤ノ木社長。私たちの当たり前のために、毎日当たり前を支えてくれる人々がいる——それを忘れてはならないのだ。

創業以来、地域に根差し電気を提供し続けてきた『根津電設』。その中で磨き上げられてきた確かな技術力を次の世代へつないでいくことが自身の役割だと、社長は考えている。「従業員には社会を支える誇りを持って、たくさんの経験を積んでほしい」。そう語る社長は、これからも自身が培ってきたノウハウを惜しみなく後進に提供し、人材育成に注力していく構えだ。